

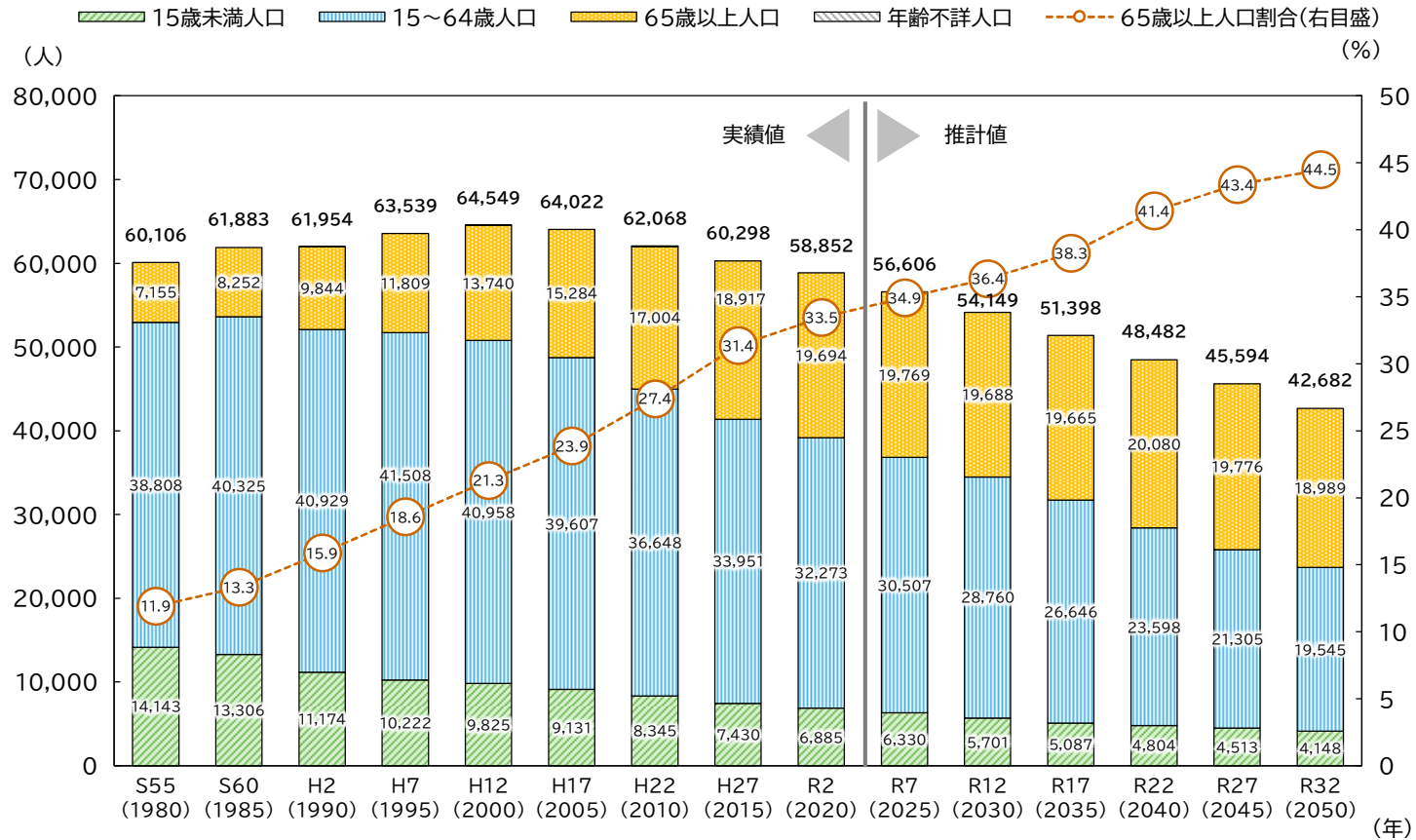
# 千曲市の現状

令和8年5月

## ■ 人口の推移および将来予測

- 総人口は、平成12年(2000年)の64,549人をピークに減少に転じている。
- 「国立社会保障・人口問題研究所(社人研)」の推計(※R5推計)によると、引き続き人口が減少し、**令和32年(2050年)には42,682人と、令和2年(58,852人)に比べ27.5%減少する見通し。**
- 高齢化率は、令和32年には44.5%と、令和2年の33.5%から11%ポイント上昇する見通し。

【千曲市人口の推移および将来予測(年齢3階級別)】



(資料)S55~R2:国勢調査、R12~R32:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」

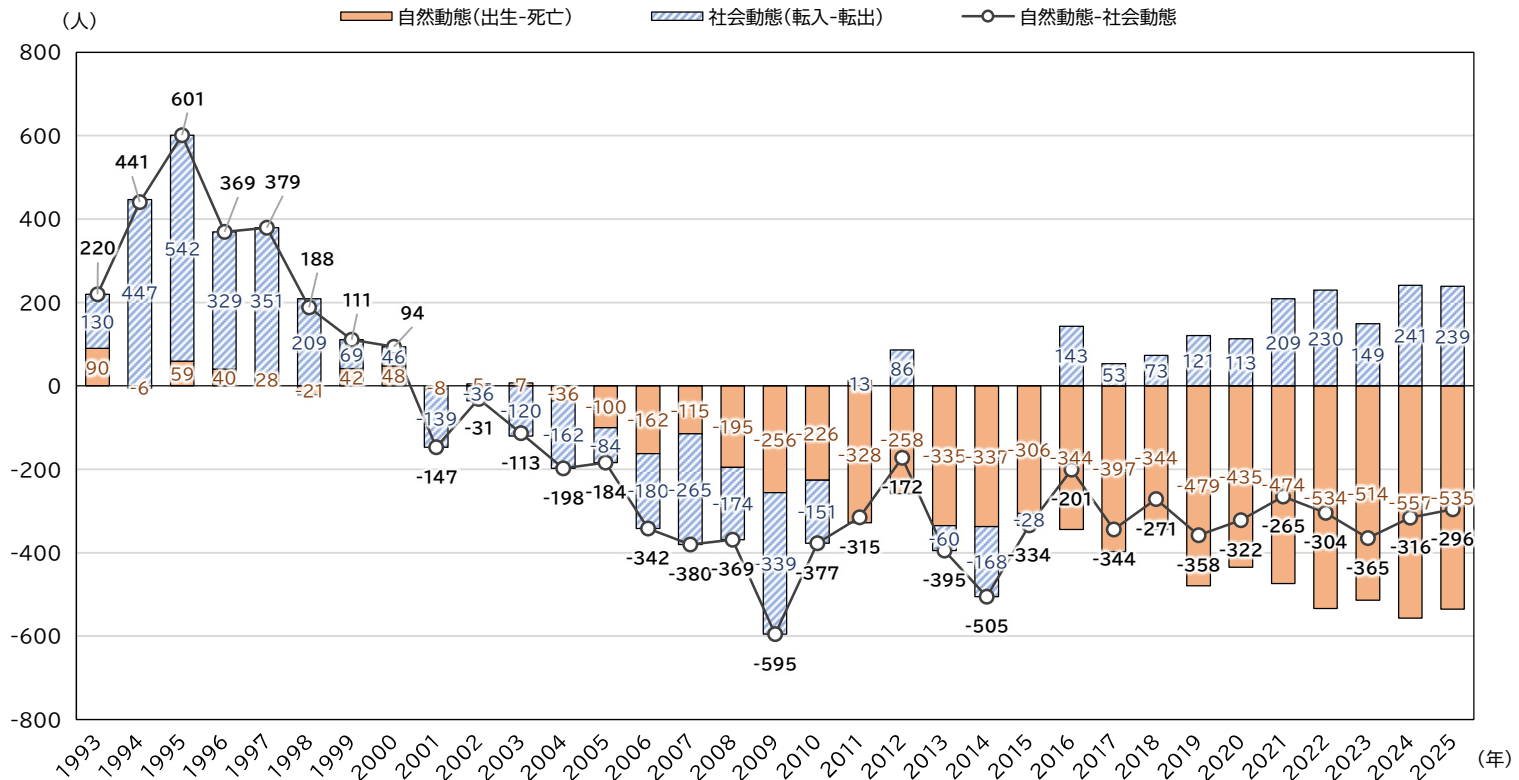
(注1)H27、R2については、年齢不詳人口を按分したデータを用いている

(注2)合併前の時点については現市域にて集計

## ■ 人口増減の要因は？

- 人口は、「**自然動態**」(出生数と死亡数の差)と「**社会動態**」(転入者数と転出者数の差)によって増減する。
- 1993年～2000年にかけては、「自然動態」「社会動態」いずれもプラスで推移し、全体(折れ線)としてプラスで推移。
- 2001年～2015年にかけては、概ね「自然動態」「社会動態」いずれもマイナスで推移し、全体としてマイナスで推移。
- 2016年以降をみると、「**自然増減**」は**長期的にマイナス幅が拡大傾向にあるものの**、「**社会動態**」は**プラスで推移**。ただし、全体でみると、マイナス300人程度の水準で推移している。

【自然動態・社会動態の推移】

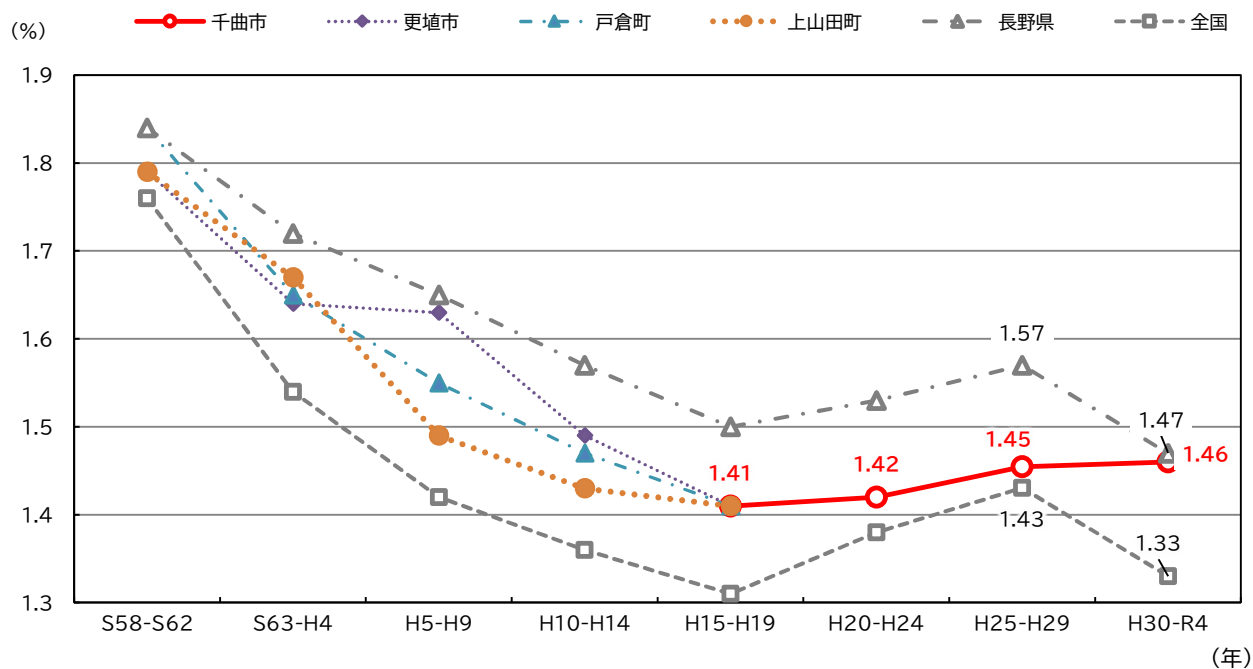


(資料)長野県「毎月人口異動調査」

## ■ 合計特殊出生率の推移

- 合計特殊出生率は、全国に対しては上回る水準で推移するが、長野県に対しては下回る水準で推移(ただしH30-R4は県とほぼ同水準)。
- H15-H19には、1.41と最低水準となったが、H20-H24以降は上昇に転じ、H30-R4は、1.46まで増加。

【合計特殊出生率の推移(全国・県と比較)】



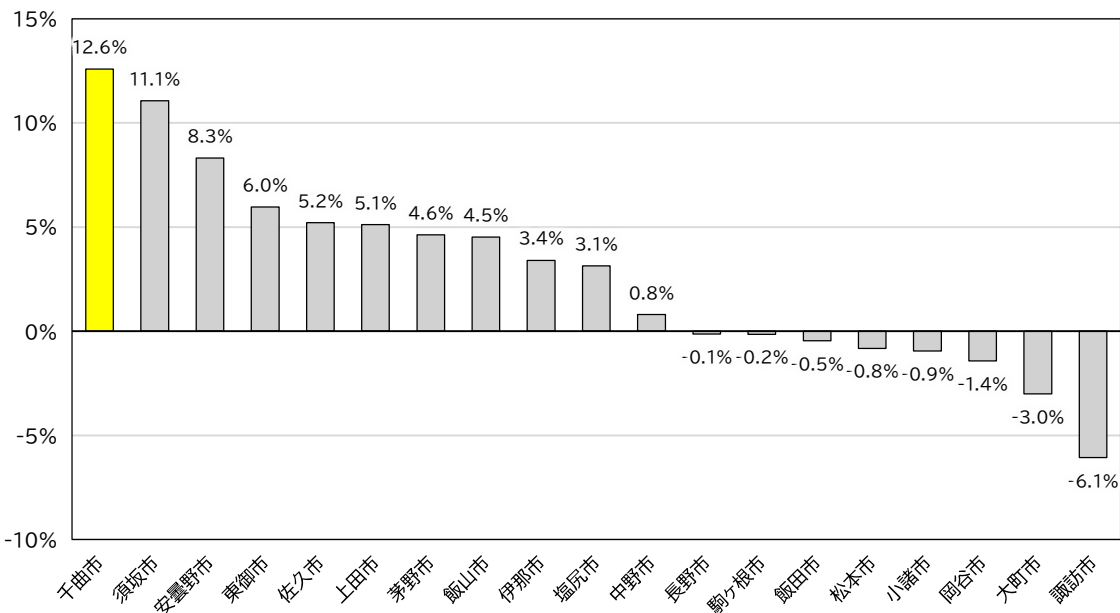
(資料)厚生労働省「人口動態統計特殊報告-人口動態保健所・市町村別統計」、「人口動態調査」  
 (注1) 全国の昭和58年から平成14年までは各期間の中央年次における「人口動態調査」の値。  
 全国の平成15年以降および長野県、千曲市は「人口動態統計特殊報告」の値。  
 (注2)2003年(平成15年)9月1日に、更埴市 戸倉町 上山田町が合併

## ■ 千曲市は他自治体で出産後に転入してくる子育て世帯が多い？

- [左グラフ] 「0～4歳→5～9歳」の子どもの純移動率をみると、19市中「1位」と高い。
- [右グラフ] 生まれてくる子どものうち「第2子以降」の割合をみると19市中「4位」と高い(一方、第1子の割合は「16位」と低い)。

⇒「他自治体で出産後に、転入してくる子育て世帯が多い」ことを示唆。

「0～4歳→5～9歳」の子どもの純移動率(2015年→2020年)



(資料)総務省「国勢調査(不詳按分)」、RESAS(厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成)  
 (注)「0～4歳→5～9歳 純移動数(2015年→2020年)」(※RESAS)を、0～4歳人口(2015年)(※国勢調査)で除して算出した

【出生順の19市比較】

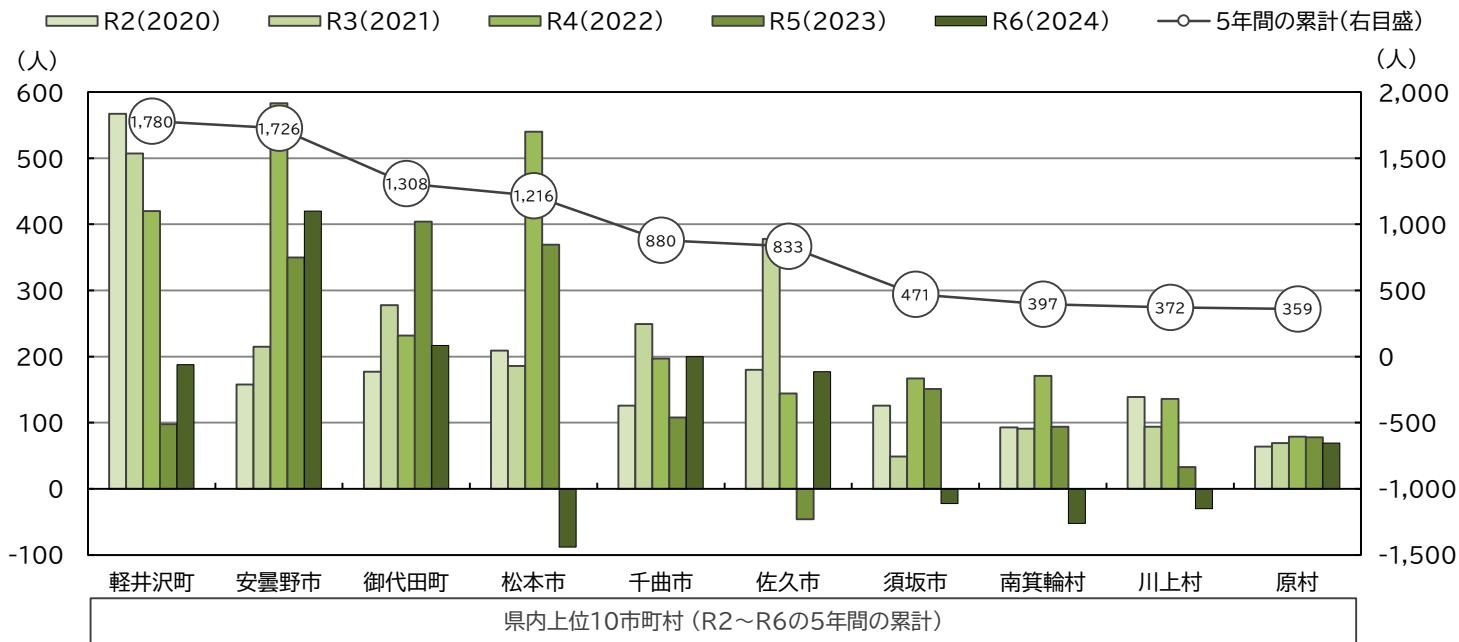
|      | 第1子   |        | 第2子以降 |        |
|------|-------|--------|-------|--------|
|      | 割合    | 19市中順位 | 割合    | 19市中順位 |
| 長野県  | 44.5% | -      | 55.5% | -      |
| 長野市  | 46.1% | 4      | 53.9% | 16     |
| 松本市  | 46.1% | 5      | 53.9% | 15     |
| 上田市  | 47.6% | 3      | 52.4% | 17     |
| 岡谷市  | 50.2% | 2      | 49.8% | 18     |
| 飯田市  | 45.1% | 8      | 54.9% | 12     |
| 諏訪市  | 40.6% | 15     | 59.4% | 5      |
| 須坂市  | 40.9% | 14     | 59.1% | 6      |
| 小諸市  | 46.0% | 6      | 54.0% | 14     |
| 伊那市  | 42.5% | 13     | 57.5% | 7      |
| 駒ヶ根市 | 43.2% | 10     | 56.8% | 10     |
| 中野市  | 43.0% | 12     | 57.0% | 8      |
| 大町市  | 36.9% | 18     | 63.1% | 2      |
| 飯山市  | 33.7% | 19     | 66.3% | 1      |
| 茅野市  | 44.0% | 9      | 56.0% | 11     |
| 塩尻市  | 52.9% | 1      | 47.1% | 19     |
| 佐久市  | 45.8% | 7      | 54.2% | 13     |
| 千曲市  | 40.5% | 16     | 59.5% | 4      |
| 東御市  | 40.1% | 17     | 59.9% | 3      |
| 安曇野市 | 43.1% | 11     | 56.9% | 9      |

(資料)長野県「衛生年報」

## 千曲市の転出入者数は、県内他市町村と比べてどうか？

- 過去5年間の社会動態(転入と転出の差)の累計値を多い順で並べてみると、千曲市は77市町村中「5位」と高い(5年間で880人の転入超過)。
- 千曲市は「社会動態」に強みを有した自治体といえる。

【県内自治体と比較した社会動態(転入超過数)の状況】



(資料)総務省「住民基本台帳人口移動報告」  
 (注)「5年間の累計」の多い順に並べている

## ■ 「年代別」に「転出入の地域別」の状況を見るとどうか？

### 【子育て世代】

- 「0-9歳」「30代」の転入超過が顕著（特に長野市から）

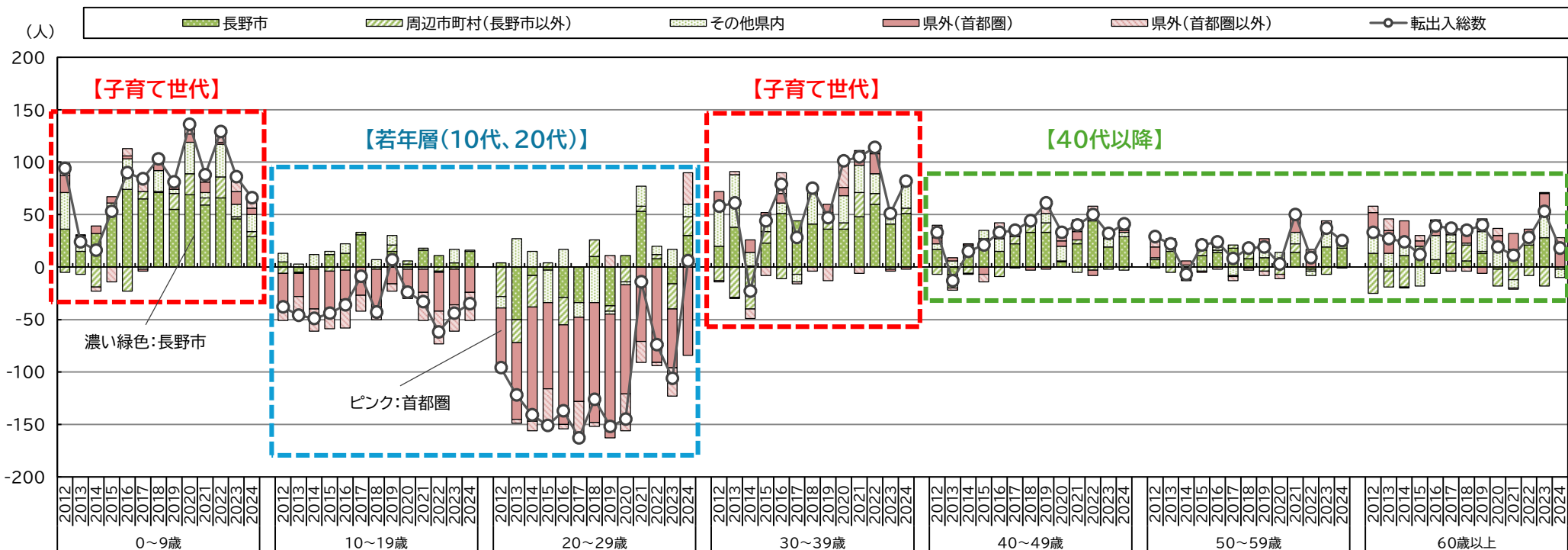
### 【若年層(10代、20代)】

- 進学や就職等に伴い転出超過。特に「20代」は、「首都圏」へ転出超過の傾向が強い

### 【40代以降】

- 主に「長野市」や「首都圏含む県外」から転入超過の傾向

【年代別にみた転出入の状況】



(資料)総務省「住民基本台帳人口移動報告」  
 (注1)周辺市町村:上田市、麻績村、筑北村、坂城町  
 (注2)首都圏:東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県  
 (注3)統計上、調査していないため該当数値がないもの等は0として集計

## ■ 事業所数、従業者数の多い産業は何か？

### 【事業所数】

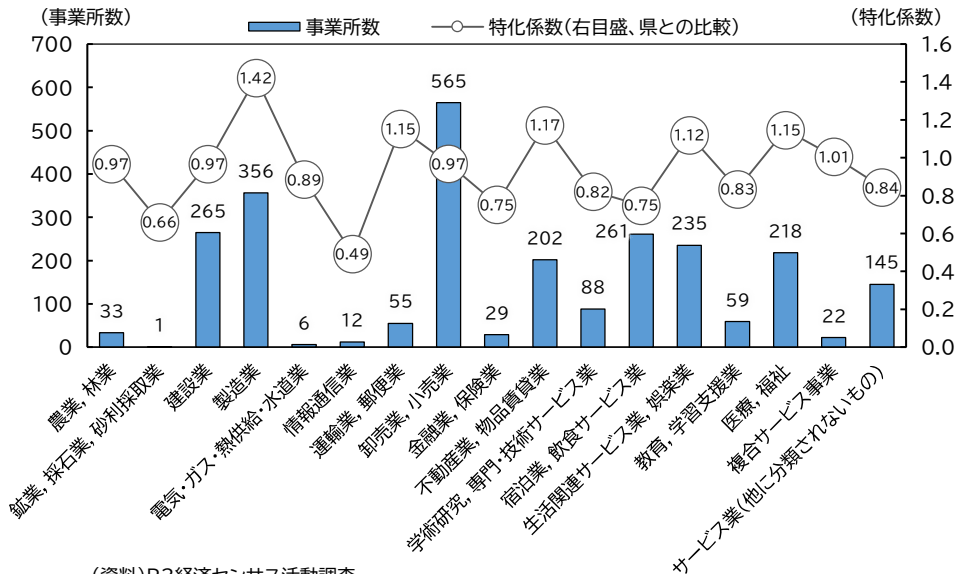
- 事業所数は、「卸売業、小売業」「製造業」「建設業」が多い。
- 県全体と比べた特化係数をみると、「製造業」は事業所数が多く、かつ特化係数が1を超えていることから、本市へ集積している産業といえる。

※ 特化係数 = 「千曲市におけるA産業の構成比」÷「県全体におけるA産業の構成比」。構成比が県と同じだと、特化係数は「1」となる。）

### 【従業者数】

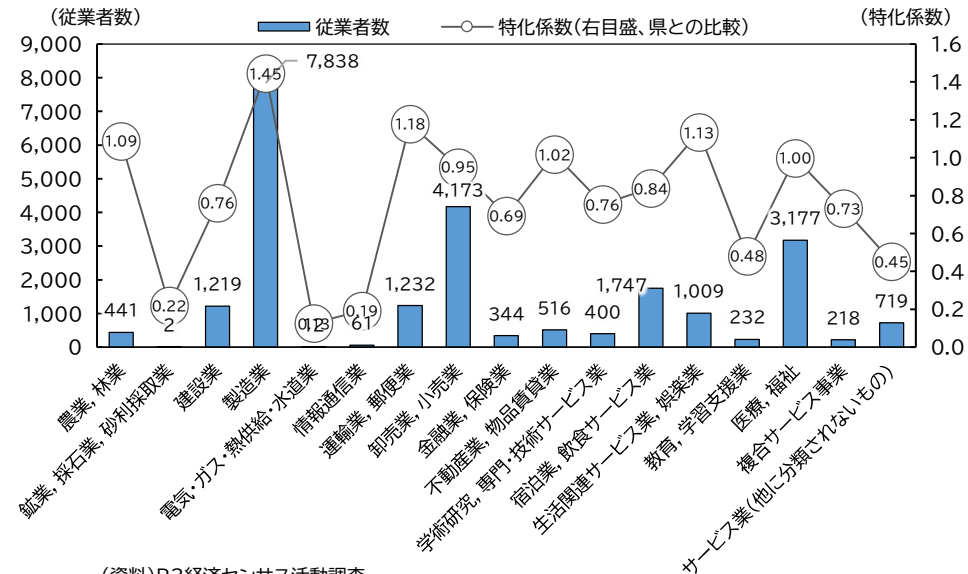
- 従業者数は「製造業」が突出して多い。次いで「卸売業、小売業」、「医療・福祉」が多い。

### 【事業所数】



(資料)R3経済センサス活動調査

### 【従業者数】

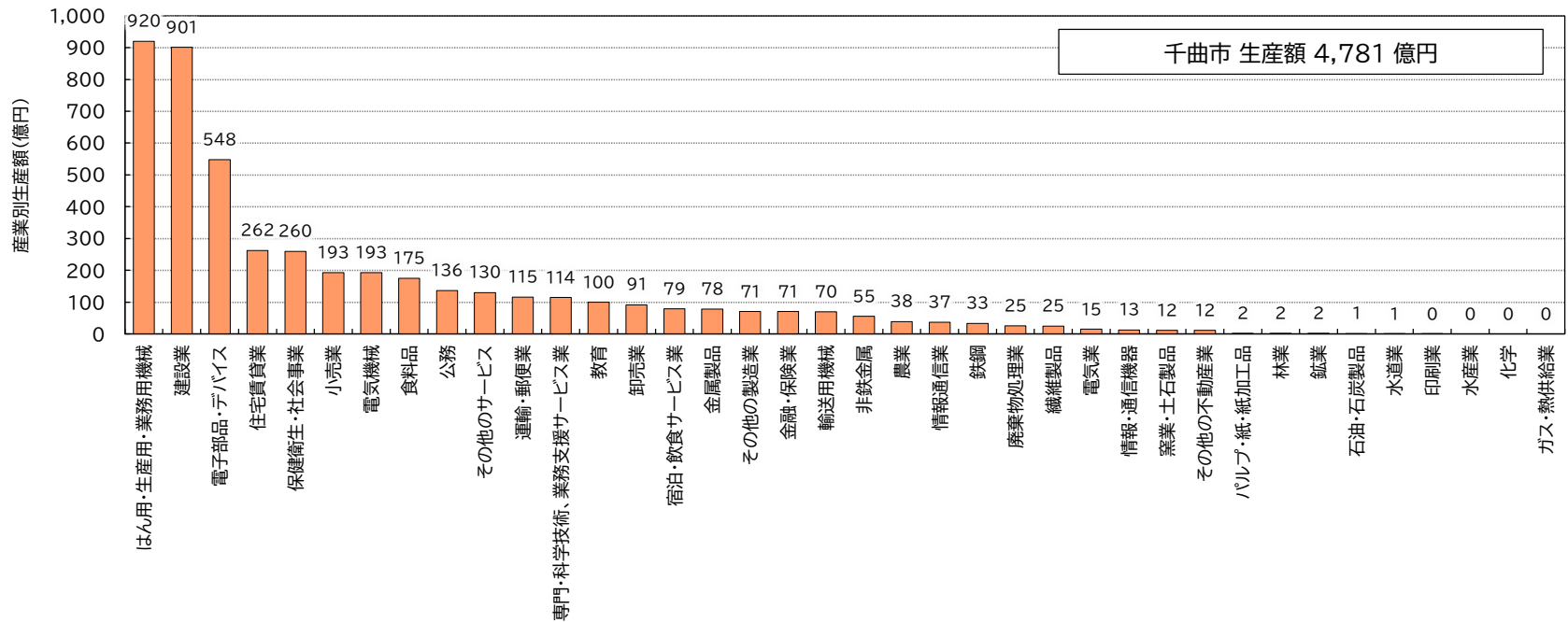


(資料)R3経済センサス活動調査

## ■ 地域の中で規模の大きい産業は何か？(産業別生産額)

- 生産額(売上額)が大きい産業は、生産した財・サービスを地域の内外へ販売して、所得を獲得しており、地域の代表的かつ地域の強みとなっている産業といえる。
- 生産額が最も大きい産業は「はん用・生産用・業務用機械」で920億円であり、次いで「建設業」、「電子部品・デバイス」、「住宅賃貸業」の生産額が大きい。

【産業別生産額】



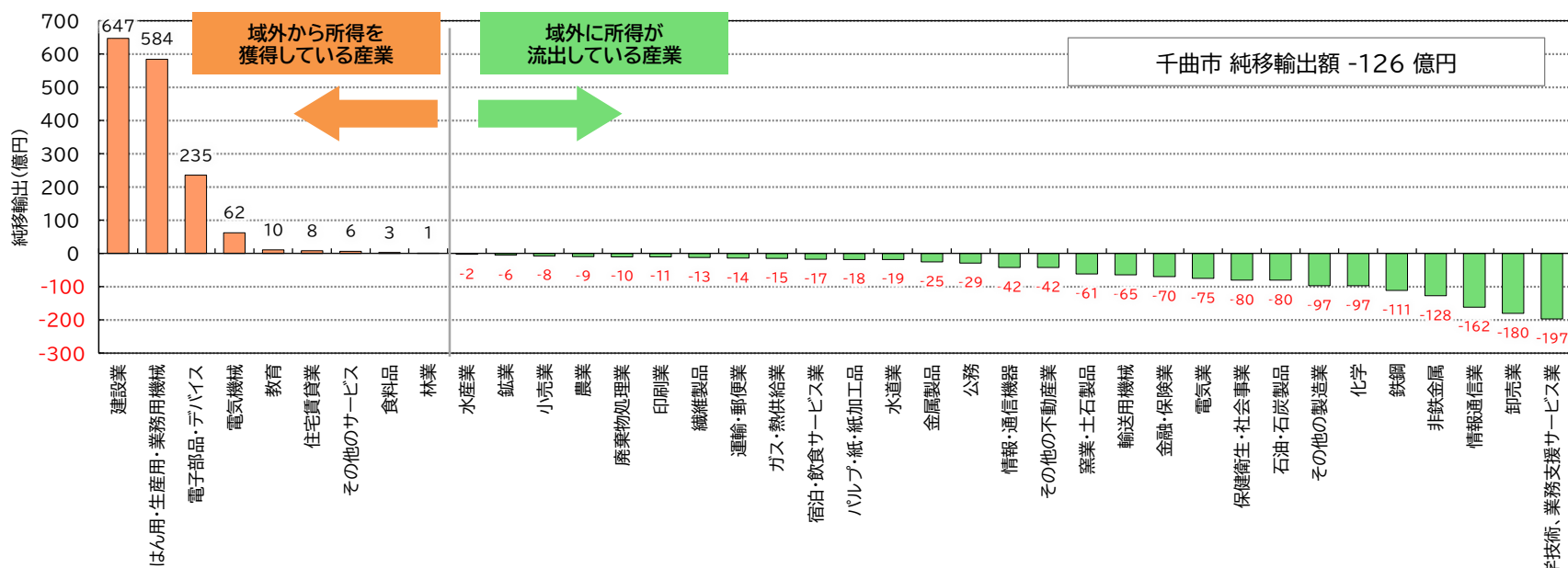
(資料)「地域経済循環分析(2022年)」(環境省、株式会社価値総合研究所)

(注)「国民経済計算(2015年基準・2008SNA)」、「県民経済計算(2015年基準・2008SNA)」、「令和3年経済センサス」、「令和2年産業連関表」等より作成

## ■ 域外から所得を獲得している産業は何か？(産業別純移輸出額)

- 各産業では、「地域外に販売(移出)する場合」と「地域外から購入(移入)する場合」があり、その「合計値」である「純移輸出額」を確認する。
- この「純移輸出額」がプラスとなっている産業は、「域外への支払い額」よりも「域外からの受取り額」の方が多く、「域外から所得を獲得できる強みのある産業」といえる。
- 「建設業」、「はん用・生産用・業務用機械」、「電子部品・デバイス」、「電気機械」、「教育」、「住宅賃貸業」等は、「域外から所得を獲得している産業」であり、地域で強みのある産業といえる。

【産業別純移輸出額】



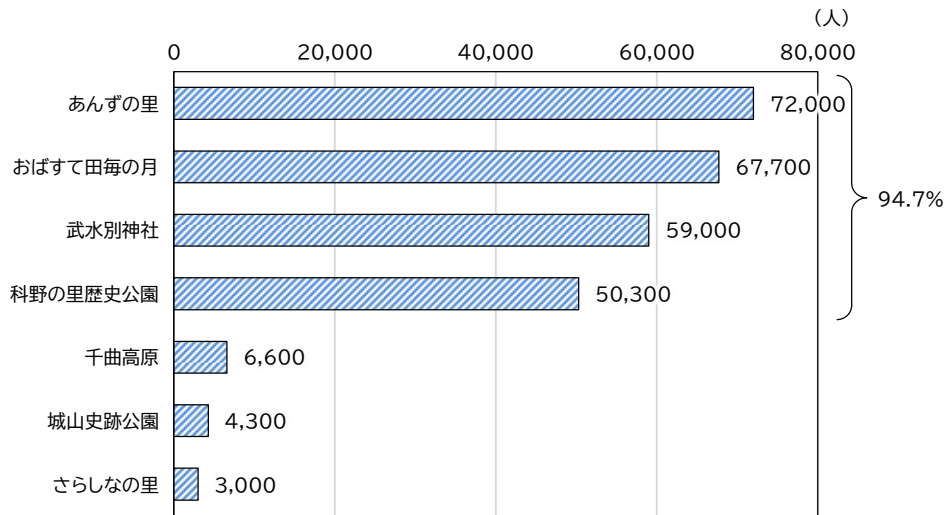
(資料)「地域経済循環分析(2022年)」(環境省、株式会社価値総合研究所)

(注)「国民経済計算(2015年基準・2008SNA)」、「県民経済計算(2015年基準・2008SNA)」、「令和3年経済センサス」、「令和2年産業連関表」等より作成

## ■ 利用者の多い観光地はどこか？ 増えている(減っている)観光地はどこか？

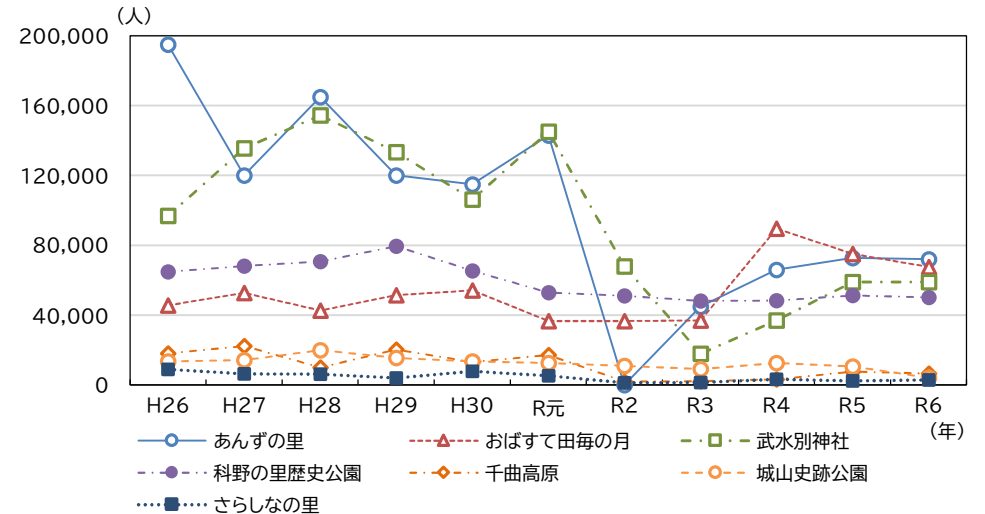
- 主要観光地7地点をみると、上位4地点(「あんずの里」「おばすて田毎の月」「武水別神社」「科野の里歴史公園」)で、全体の94.7%を占める。
- これら4地点について、過去約10年の推移をみると、「あんずの里」「武水別神社」はコロナ以前の約半数程度に減少している一方、「おばすて田毎の月」は、令和4年以降はコロナ禍前の水準を上回って推移している。
- 「科野の里歴史公園」は概ね横ばいで推移している。

【観光地利用者数(R6年)】



(資料)千曲市統計書(2025年版)

【主な観光地の利用者数推移】



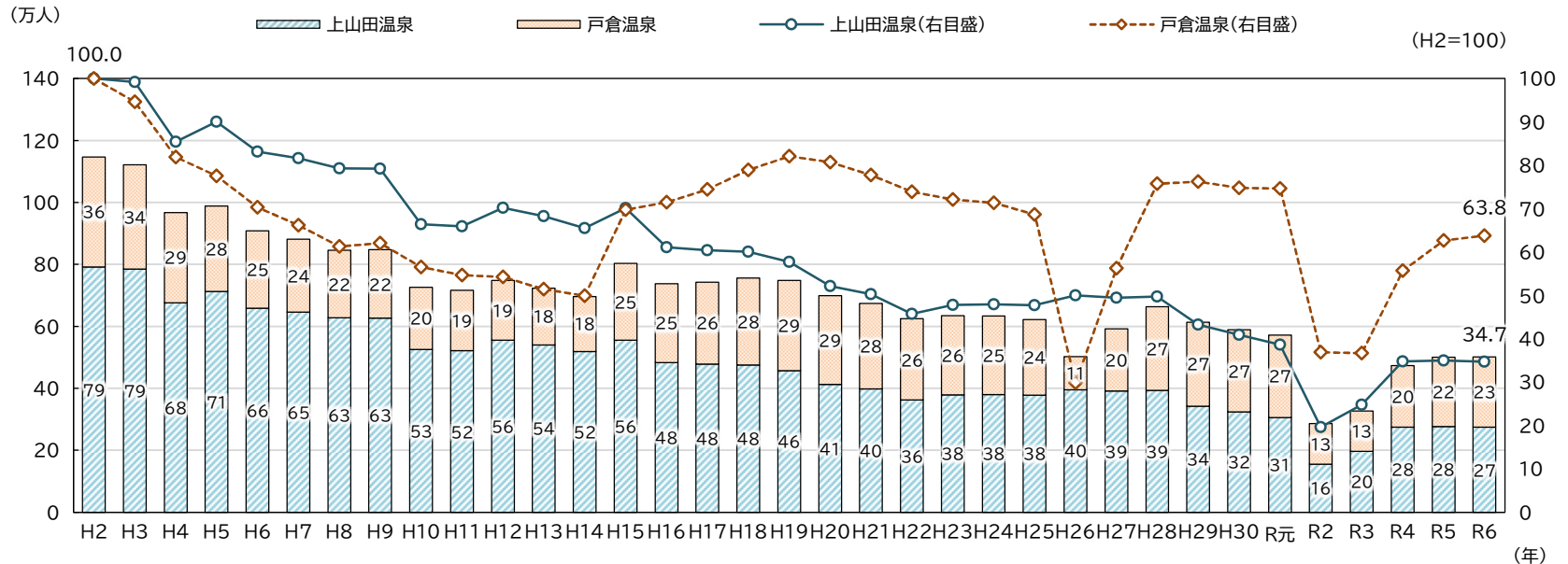
(資料)千曲市統計書(2025年版)

(注)令和2年「あんずの里」利用者数は、あんずまつりが中止になったため不詳。

## ■ 戸倉上山田温泉の入湯客数の推移は？

- 平成2年以降の戸倉上山田温泉の入湯客数をみると、平成2年をピークとして長期的には減少傾向にある。
- 平成2年=100とした指標で、令和6年の水準をみると、戸倉温泉は63.8、上山田温泉は34.7まで減少している。
- 足元の状況をみると、令和2年～3年はコロナ禍の影響が大きく、戸倉上山田温泉全体で30万人程度にまで減少したが、令和4年以降は50万人の水準まで回復し推移している。

【戸倉上山田温泉 入湯客数の推移】

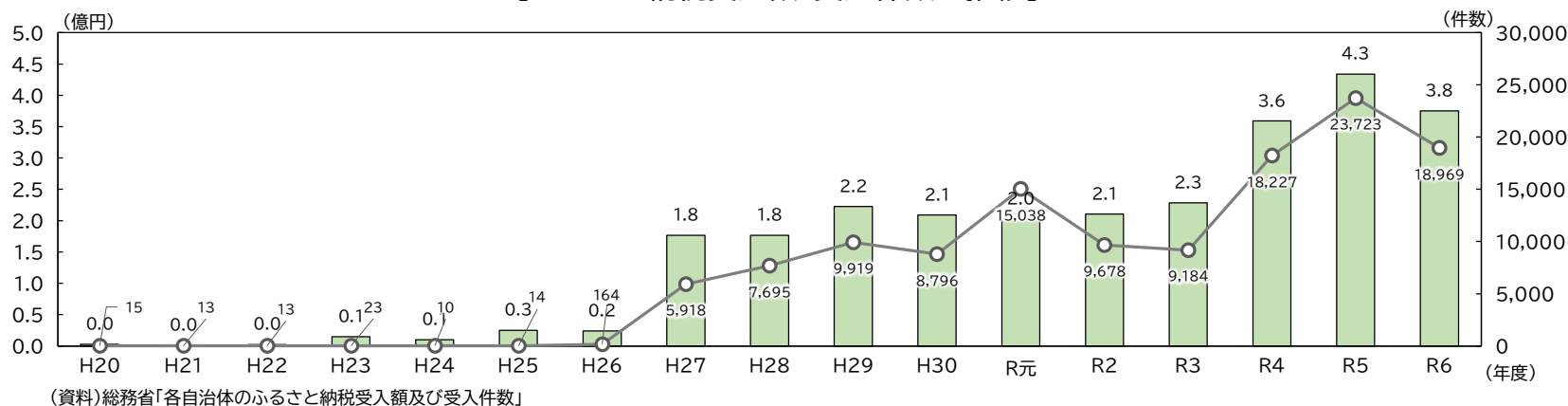


(資料)千曲市統計書(2025年版)

■ ふるさと納税額の推移

- ふるさと納税についてみると、受入額・受入件数ともに、長期的に増加傾向にある。
- 受入額を他自治体と比較すると、千曲市は県内77市町村中「29位」(令和6年度)。

【ふるさと納税受入額・受入件数の推移】



【ふるさと納税受入額ランキング(令和6年度)】

